

日本語 DSSSL 指定の多言語拡張について

前提：日本語 DSSSL 指定を、汎用的な多言語対応に拡張することを検討する前に、日本語環境に類似する漢字圏の諸言語（中国・台湾・韓国）への拡張に絞って、その仕様案をまとめる。

全体を通してみると、次のように結論付けることができる。

- 中国・台湾：行内行組版機能に若干の追加が必要。
- 韓国：日本語組版機能でほぼ条件は満たされる。

拡張のための概要仕様案

1. 判型

日本語仕様に順ずる。

2. 版面

基本的に日本語仕様に順ずる。ただし

Content-driven / Layout-driven

をサポートできること（従来通り）。

Content-driven のときの指定単位は、

mm (cm), pt, Q, em

とする（**em** 指定は仕様外となっている）。

3. 組方向

日本語仕様に順ずる。中国・台湾の組方に、「右から左への横組」があるが、これは考慮しない（ただし、ヘブライ・アラビック系への対応時に考慮する。モンゴル語対応時には「右改行縦組」をサポート）。

4. 行組版規則

4.1 中国・台湾組版：

【結論】

中国・台湾組版においては、

- ・段落開始行は2字下げをデフォルトとする（従来の仕様範囲）
- ◎圈点類（専名号、書名号を含む）を下／左に配置する機能追加（仕様拡張）
- ・約物は原則として全角扱いとする（半角扱いも可とする）－（従来からフォーマッ

タ依存要素)

のみを考慮する程度で実用的なフォーマティングを実現（巻末の図1、図2を参照）。

【考察】

中国・台湾の縦組においては行頭禁則処理を行わない組版が見られるが、近年のものでは禁則処理を行っているものが増大しており、基本的には日本語仕様と同等で可（日本語環境でも、禁則処理を解除するモードを必要とする場合もある）。

欧文との混植では、欧文前後のアキをベタにするもの、四分程度のアキをとるものなど、ユレが大きい。これは組版アプリケーションに引きずられる結果であって、ルールが明確に決められていないことが原因である。これは、他の組版上の振舞いについても同様。

段落開始行は2字下げが普通。

日本語 **DSSSL** ライブラリでは、柱・ノンブルの位置・体裁に関して具体的なモデルを決めているが、実際の中国・台湾組版においては、日本には少ない体裁を持つものもある。ただし、とくにまったく思想が異なるものはほとんどなく、ネイティブの要求に応じてライブラリを拡張する方向で考えればよいと思われる。

4.2 韓国組版：

【結論】

韓国の組版は日本に非常によく似ている。それは、活版時代に組版技術が日本から伝播したからであって、現在でも日本の印刷用語が韓国語として用いられているものもある。縦組み組版においてはほとんど同一とみてよい。

しかし近年、ほとんどの印刷物が横組みになったことにより、日本語組版の影響は薄れる方向にある。もっとも特徴的な要素は「ハングル主体」と「分かち書き」である。基本的には日本語組版機能が適用でき、フォーマタ依存となる部分も多いので、**DSSSL** ライブラリの拡張は不要。

【考察】

ハングル組版は、半角を基準とするワードスペースを挿入する「分かち書き」である。したがって、純ハングル組版においても、行長に半角の出入りがあり、ジャスティファイケーションが必要になる。

ルビの使用はあるが、現在ではほとんどの文章がハングルで組まれ、固有名詞、同音異義語のために意味が受け取りにくい語などを対象に漢字を添える場合も、当該漢字をパーセンで括って表記するのが一般的。脚注で注記する例が小説等においても散見される（巻末の図3を参照）。

ノンブル、柱文の立て方も日本語組版に準じる。

分析結果資料

1. 中国組版分析

中国において最近出版された書籍を、約**40** 冊ほど店頭（東京・神田「内山書店」）で調査した結果を簡単にまとめた。

（1）句読点

横組みはすべて例外なく“。”である。一方、縦組みでは、これも例外なく従来通りの「中心付き」となっている。ただし、横組みカンマの位置は、日本のものに較べて若干上に見える。

（2）分号（；）、冒号（：）

日本のものより下がっている。問号（？）も同様。

（3）段落2字下げルールを適用している書籍が多い。

（4）書体による字詰めピッチの差は認められない。

たとえば、

王泰平 主編『新中国外交50年（上）』 北京出版社 （**88** 元 **5400** 円）など。

（5）行頭・行末禁則が施されている組版が多い。

2. 台湾組版分析（約物の使い方）

2.1 組版分析

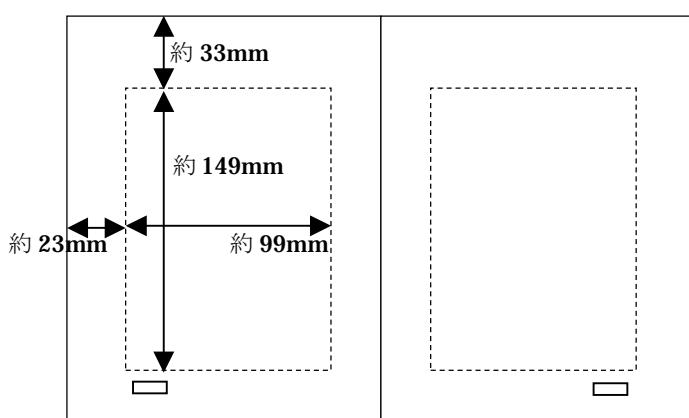
台湾で発行されている最近の書籍の組み方分析を行った結果をまとめる。例として2例を挙げる。

（1）金庸著「鹿鼎記」（遠流出版事業股份公司）

全五冊のうちの第二

A5判・縦置き・並製本・1987年刊・ISBN 957-2946-3

版面：



概ね **10.5pt** (又は五号) で縦組 **40** 字詰め, **18** 行, 行間 2 分アキである。

柱なし, ノンブルは地の外側で, 半角数字を中黒で挟んでいる。

段落開始行頭 2 字下げ

約物のぶら下げなし

句読点, カッコ類はすべて原則として全角処理, 約物が連続した場合も同様。ただしカッコ類が連続した場合は半角処理とされている。

行頭・行末禁則は実施。その場合の補正手段は追込み (全角約物を半角処理するなど)。

本文書体 (明朝体), 文字サイズは一定であるが, パーレンの中に注釈を入れる場合があり, サイズを落とし, 書体を楷書体としている部分もある。

後注あり, 書体・文字サイズともに変更。ただし組み方は同一。

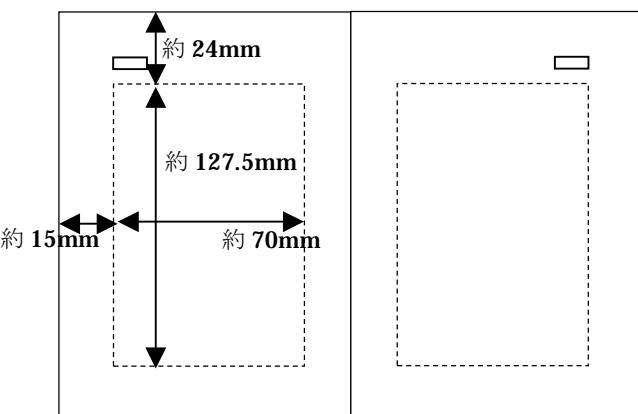
見出しへ行取りあり (7 行取り中央) ——右図参照。

図あり, 図のページは独立。ノンブルあり。

(2) 文庫本 孫武原作「孫子兵法」(金楓出版社)

文庫判・縦置き・並製本・1986 年刊・ISBN 957-8501-52-8

版面 :



概ね **13Q** 長体 1 で縦組 **38** 字詰め, **14** 行, 行間全角アキである。

柱, ノンブルは天の外側で, ノンブルは半角数字を中黒で挟んでいる。柱 : 右ページは書名の「孫子兵法」, 左ページは各表題。左横組み。書体は楷書体。

段落開始行頭 2 字下げ

約物のぶら下げなし

句読点, カッコ類はすべて原則として全角処理, 約物が連続した場合も同様であるが, 禁則処理の有無に関係なく半角処理されているものもある (《》はほぼ例外なく半角処理)。ただしカッコ類が連続した場合は半角処理とされている。

行頭・行末禁則は実施。その場合の補正手段は原則追出し (全角約物を半角処理す

るなど)。

本文書体(明朝体), 文字サイズは一定。

後注あり, 書体・文字サイズともに変更。ただし組み方は同一。

見出しは行取りあり(4行取り中央)。

図あり, 図のページは独立。図の解説は横組み。書体は楷書体。柱・ノンブルあり。

以上の分析を通して, その特徴をまとめる。

- ・約物の種類, 使用方法は日本とは若干異なる。
- ・約物はほとんど全角で使用される。括弧類が連続した場合, 特定の括弧(())の場合などに半角処理が行われたりしているが、書籍によって, その振舞いは異なる。
- ・日本で多い「句読点のぶら下げ処理」はほとんどなされていない。
- ・基本的な禁則処理(句読点, 括弧類の行頭・行末禁則処理)はなされている。
- ・段落開始行を2字下げとするケースが多い(1字下げも見られる)。
- ・版面の位置(余白など)は, とくに標準とされるものは見当たらない。
- ・ノンブルの修飾には中黒が多く用いられている。柱とノンブルが同行に位置しているケースが多く見られる。

2.2 約物の使用方法

「標点符号的使用」として学校等で教えている。教育省が民国八年(1919年)に発布したもので, その後, 「点号」が二つに分かれ, さらに14項が加えられた。

ここでは各約物の振舞いを規定しているわけではなく, 目的を述べているだけであるが, 約物の種類を比較する資料になる。日本の約物の種類と比較して特徴的なことは,

“:” “;” など, 日本では通常の文章中では用いない符号があること, “十三”の波野の使用目的が定められていること
である。

以下に, 原文を抄訳する。

標点符号的使用

- 一、句号(.) 文を区切る符号。文末に用いて発話の完了を示す。
- 二、逗号(,) 文中の間, 区切りを示す符号。
- 三、頓号(,) 間のもっとも短いものを示す符号。文中では同類の語句の並列に用いる。
- 四、分号(;) 並列或いは対比を示す従属文に用いる符号
- 五、冒号(:) 前文が終わる, 或いは次の文を提起することを示す符号。前文を受けて次の文を記したり, 引用に用いる。
- 六、問号(?) 疑問を示す符号。懷疑, 質問, 反芻, 訝しむ語気の文末に用いる。
- 七、驚嘆号(!) 感情, 語気, 口調を示す符号。喜怒哀楽などの感情, 願望, 賞賛,

感嘆, 命令, 呼びかけなどの語気を示す文末に用いる。

八、引号（「」或いは『』）引用後、或いはとくに提示する内容の始まりを示す符号。

引用後の始まり及び末尾、とくに取り上げる句の前後に用いる。

一般的には「」を用いるが、引用句の中に、さらに引用句がある場合などに2種類を交互に用いてもよい。

九、夾注号 (()) 或いは [] 或いは――――) 説明、解釈を示す符号。説明、解釈句の前後に用いる。

十、破折号（――）文の意味の急転、語気の変化を示す符号。

十一、刪節号（……）　言葉が省略されていたり、語気が完結していないことを示す符号。

十二、専名号（——）人名、地名、国名、王朝名、学派名、種族名などの固有名詞を示す。その名詞の左側（又は右側）につける。

十三、書名号（～～） 書名、篇名、新聞社、雑誌名などを示す符号。その名称の左（又は右）側につける。

十四、音界号（・） 外国人の姓と名の中間を示す符号。中国語に翻訳した外国人の姓と名の中間に付ける。

3. 韓国の約物について：

韓国の「韓国語文規定集」(1995)によれば、

終止符 (.) ()

休止符 (, , . : /)

引用符 (“”『』‘’〔〕)

括弧符 (()) {}

連結符 (- - ~)

顯在符（注：圈点のこと。ただし下線も含む）

潜在符 (×× ○○ □□)

などがある。この中で「潜在符」は日本語組版のための約物としては規定されていないが、これは通常の文字として扱えばよく、特段の振舞いは要求されない。

Annex 組版例

図1 台湾中学教科書「国文」より

(二) 山居の秋暝②

王維

■解

本詩是白居易詩。內容描寫山村秋天的景色，首句點出地點、時間，次句則寫

此兩句的景色。首句點出地點、時間；次句則寫

作 著

王維，字摩詠，唐太原郡（今山西省太原市，音く）人。生於武后長安元年（西元七〇一年），卒於肅宗上元二年（西元七六一年），

年六十一。他早年所作詩，清新淡雅，筆調也

這一中年以後，風格轉為清雅閒淡，意境悠遠。

王維不但擅長作詩，又工書畫，山水畫著稱精妙，與張璪有「詩中有畫，畫中有詩」。著有《王右軍集》。

空山新雨後，天氣晚來秋。
明月松間照，清泉石上流。
竹喧歸浣女④，蓮動下漁舟⑤。
隨意春芳歇⑥，王孫自可留⑦。

傍線が左付きになっている。

図2 台湾における日本語教習用参考書「日本語ジャーナル」

愛知県名古屋市で、同級生を賣して金を奪って
いた少年らが逮捕された。奪し取った金額は、
合計で約5400万円にのぼると見られている。

在愛知県名古屋市向日町勒索金銀的少年遭到逮捕。勒索取得的金額合計約達5400萬日圓。

4月5日、愛知県警が、名古屋市内に住む少
年3人（15歳）を傷害と恐喝の疑いで逮捕した。
少年たちは、今年3月まで通っていた中学校で、
同級生の男子生徒を繰り返し脅して、総額で5400
万円にものぼる金を奪い取っていた。

警察の調べによると、恐喝が始まったのは昨
年の6月。逮捕された少年たちは、被害者の男
子生徒に対して、「内証話を先輩にもらした」な
どと因縁をつけた。男子生徒は、自分の預金か
ら19万円を引き出して、脅した少年たちに手渡
した。息子が金を引き出したことを知った母親
は、すぐに学校や警察に相談したが、男子生徒

組み方は標準的な日本語組版であるが、ルビが下に付いている。

（実際の組版は日本で行われている）

図3 韓国の古典文学「春香傳」より。

106

“그러면 너 죽어 뭘 것 잇다. 너는 죽어 명사십이(明沙十里) 히
당화(海棠花)가 되고 나는 죽어 나부 되야 나는 네 췄송이 물고
너는 너 수염 물교 춘풍(春風)이 건듯 불거면 너울너울 추물 추
고 노라 보자. 사랑 사랑 너 사랑이야. ❶ 너 간간 사랑이제. 이리
보와도 너 사랑, 저리 보와도 너 사랑. 이 모다 너 사랑 갓틔면 사
랑 걸여 살 슈 잇나 어허 등등 너 사랑 너 예찌 너 사랑이야. ❷
쌩긋쌩긋 웃는 거슨 화중왕(花中王) 모란화(牡丹花)가 하로밤 세
우(細雨) 뒤에 밤(半)만 피고자 흐 듯 아물리 보와도 너 사랑 너
간간이로구나. ❸ 그러면 엊저잔 마린야. 너와 나와 유정(有情)하
니 ❹ 정쓰(情字)로 노라 보자. 음상동(音相同)¹⁰하여 정싸 노리나
불너 보식.”

“드롭시다.”

“너 사랑아 틀려서라. 너와 나와 유정하니 이이 안니 다정(多
情)하리. 담담장강수(澹澹長江水) 유유(悠悠)의 원직정(遠客情)²
❺ 하교(河橋)의 불상송(不相送) 강수원합정(江樹遠含情)³ ❻ 송
군남포불승정(送君南浦不勝情)⁴ ❼ 무인불견송하정(無人不見送我
情)⁵ ❽ 한티조히우정(漢太祖喜雨情)⁶ ❾ 삼티 육경(三台六卿)

1) 음상동(音相同) : 음이 서로 같음. 한 목소리로 음을 맞춤.

2) 담담한 강물, 풀풀한 나그네. 당나라 시인 위승경(韋承慶)의 '남행별제(南行別
弟)'의 첫 연이다.

3) 다리 위에서 임 보내지 말지니, 강 건너 나무들도 예릇한 정을 풀네. 당나라 시인
송지문(宋之間)의 '별두심언(別都審言)' 중 한 연이다.

4) 송군남포불승정(送君南浦不勝情) : 남포로 임 보내는 슬픔을 이길 수 없네. 고려
의 시인 정지상(鄭知常)의 '서도(西都)'를 재구성하였다. 원문은 '送君南浦動悲歌'.

5) 무인불견송하정(無人不見送我情) : 임 보내는 내 마음 아무도 모른다네.

6) 한티조히우정(漢太祖喜雨情) : 한태조란 한나라를 세운 유향(劉邦)을 가리킨다.
그러나 화우정(喜雨亭)은 송나라 소식(蘇軾)과 관련된 정자로, 여기서는 잘못 인
용되었다.

漢語の注釈を脚注で処理している。

以上